

## 式辞

春の息吹が感じられるこの佳き日に、埼玉県立越谷南高等学校第45回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより教職員にとりましても、大きな喜びでございます。

今回の卒業式は、新型コロナウイルス感染症の影響で、来賓の皆様の参列や在校生の参加はできませんでした。しかし、保護者の皆様には別会場のスクリーンでこの様子を御覧いただいております。保護者の皆様には、御卒業のお喜びを申し上げますとともに、これまで本校が賜りました御理解と御協力に深く感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました395名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうでございます。教職員一同、心からお祝いを申し上げます。

皆さんは平成30年4月に本校の門をくぐりました。以来、「文武両道 知・徳・体」の校訓の下、進路実現を目指してこつこつ勉学に励み、学校行事や部活動で青春の情熱を燃やし、知力、体力、そして素晴らしい人間力を身に付けてくれました。振り返って見れば、この三年間は決して平坦な道ばかりではありませんでした。特に、今年度は新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延しました。だれがこのような事態を予測できたでしょうか？日本も感染拡大予防に国を上げて努力していますが、いまだに出口が見えない混沌とした状況が続いています。

年度当初は、国の方針に従って臨時休業が続きました。学校再開後も新しい生活様式による自粛のため、窮屈な学校生活が続きました。そのため、皆さんが一番楽しみにしていた高校生活最後の文化祭がなくなりました。そしてなりよりも皆さんを苦しめたのは、受験や進路への不安だったと思います。オンライン授業などでカバーしてきましたが、受験への不安と焦りは重くのしかかっていたと思います。しかし、皆さんはよくその試練に耐え、苦難を乗り越えてくれたと思います。越南生の意地を見せてくれた皆さんを誇りに思います。

これから皆さんを待ち受ける社会は、社会構造が大きく変化していきます。これからの社会を担い、新たな歴史の主人公となる卒業生の皆さんに、大きな期待を込めて三つの言葉を送ります。

一つは「理想を追求してほしい」とうことです。

シェークスピアの『ハムレット』の中に「人生とは選択の連続である。」という言葉がでてきます。人は生きていくなかで、多くの選択が迫られます。細かい判断まで入れると、一日に数千個以上の選択をしていると言われるます。今現在の自分というのは、これまでの多くの選択によって形作られた結果として存在します。であるならば、未来の自分は、現在を起点とするこれからの選択によって変えることができるということになります。皆さんが未来に向けて行う選択は、安易な結果に流れる判断ではなく、理想の実現にベクトルを向けた決断であってほしいと思います。今やろうとしていることは、理想というゴールに向かうための選択となっているか、日々自問自答してほしいのです。自分の理想を追求する選択が、あなたの人生を豊かなものにしてくれます。しっかりと前を見据えて、自分の選んだ道を堂々と歩いて行って下さい。

二つ目は、「一生涯の学び」ということです。

今日、society5.0という超スマート社会に突入したといわれます。society5.0では、AI、IoT、ロボットなどの技術革新が加速度的に進展していきます。それによって新たなイノベーションが創出されていきます。変化の先に、何があるのか、到着点はどこなのか、未来を予測することは困難です。

しかしながら、最初から恐れたり諦めたりする必要はありません。人間には、AIや機械にはできない素晴らしい能力が備わっています。それは、創造力や感性であり、新しいものに挑戦しようとする向学心や探究心です。そのような人間本来の能力を、もっともっと磨いていかなければならない時代に入ったのだと思います。

言い換えれば、もはや人間は、自分を磨くこと、つまり「学ぶこと」から、逃れられないのだと思います。私たち教職員は、これからの時代に必要な資質・能力を高校教育の中でしっかり育ててきたと思っています。ですから、自信をもって、自らの「学び」を続けていってほしいと思います。自分のやりたいことを学ぶことは楽しいことです。皆さんには、生涯を通して学ぼうとする意欲をもってほしいと思っています。

三つ目の話は、「その生を慈しむ」ということです。

東日本大震災から明日で10年目を迎えます。あの日は、突然やってきました。大津波によって多くの尊い命が奪われました。その後、起きたのは、原発事故と放射能の拡散でした。皆さんは、当時まだ小学生でしたが、鮮明に記憶していると思います。テレビで見る災害の映像は、とてもこの世のものとは思えない悲惨な光景でした。

そして、今。またしても新たな災害が襲ってきました。WHOが百年に一度という危機、新型コロナウイルス感染症です。パンデミックは、いまだ終息が見えず、世界中で多くの犠牲者をだしています。

私たちは、このような悲劇を目にするたびに命の大切さを思い、当たり前前の日常がいかに尊いものであったということに気づかされます。私たちの命は自分一人で支えているものではありません。家族と自分、友人と自分、社会と自分、それぞれが自らの命を大事にし、他の命をも支えて生きているのです。世の中に生を受けた私たちは、自らの幸せのため、まわりの誰かを幸せにするため、あるいは社会の役に立つために、その生を全うすべきだと思います。これから皆さんが描こうとする未来は様々な可能性に満ちています。その可能性を信じて、失敗を恐れず、決して諦めず、今、この時を命の限り生きてほしいと思います。

終わりにになりましたが、越谷南高校は、皆さんの母校であり、ふるさとです。自信と誇りをもって、未来への一步を踏み出してください。そして、皆さんが、社会の一隅を照らし、後に続く後輩たちの目標ともなってくれることを心から願っています。校歌の一節に「胸のかがり火 耐ゆるなく、ひらく未来に 花よ咲け」とあります。卒業生の皆さんの未来に大輪の花が咲くことを祈念いたしまして式辞といたします。

令和3年3月10日

埼玉県立越谷南高等学校 校長 新井和徳